

計量文化社会学タイムマシーン①

——制服の着こなしムーブメント、『Seventeen』——

栗田 宣義

はじめに

本稿は、近年における最有力な女性ファッション誌群から一誌を選び、特定の時期におけるバックナンバーについて、系統的な分析を施すことで、誌面および、その時代の流行に、社会学的な解釈を加えるために執筆された、連載稿である。皮切の、本号の対象は、集英社の『Seventeen』、2008年10月号から2010年9月号までの、二年分24冊だ。

第1節 『セブンティーン』 『SEVENTEEN』『Seventeen』

雑誌制作の巧者、集英社の『セブンティーン』は、極彩色のサイケデリックブームの渦中、マンガや読み物を軸としたティーン向け総合週刊誌として1968年に



表紙2 『SEVENTEEN』リニューアル号
(1988年1月3日号)



表紙1 『セブンティーン』創刊号
(1968年6月11日号)

創刊した(表紙1)。そして、バブル景気で沸き立つ1987年から1988年にかけて人気女優の宮沢りえが表紙を飾った号から、月2回刊行のファッション誌『SEVENTEEN』として生まれ変わった(表紙2)。更に、創刊40周年の2008年から大判版型の月刊『Seventeen』として今世紀の姿となる(表紙3)。『Seventeen』のこの変遷は、総合誌優位からファッション誌優位へと変貌した前世紀末からの雑誌文化の半世紀を象徴している。

毎日新聞社が例年実施している学校読書調査では、高校二年生に相当する16歳が、同誌読書率のピークである。統計データに忠実に従うのならば、読者層は17歳にはもう『Seventeen』を卒業することになる訳だ。このあたりの事情はどうなっているのか。集英社編集部によれば13歳(thirteen)から19歳(nineteen)までの七つのティーンでセブンティーンだという。読者層の年齢幅を上手く表現したコピーである。『Seven-



表紙3 『Seventeen』2008年10月号

teen』は思春期、成長期にあたる中高生全般のファッション誌ということなのだ。2010年5月号(113-117頁)の「マジでこっからハヤりますんで!! JK制服リアルSpring」。理想のJKすなわち女子高校生に憧れる彼女たちにとって、スカート丈を即席ミニ化したり、ソックスを工夫したり、所謂、制服の着こなしや着崩しは日々の最優先事でもある¹⁾。

『Seventeen』のモデルはST◎と呼ばれ、ファッション誌の世界で仕事を得るための輝かしき登竜門となっている²⁾。ST◎卒業生の栄華を示すには、各誌で活躍してきた、田中美保、鈴木えみ、北川景子等の名前を挙げれば充分だろう。『Seventeen』ならびに、その若き中高生の読者たちは、創刊以来、60年以上もの間、ファッション界とその裾野を確実に下支えしてきた。『Seventeen』が元気である限り、美容化粧服飾の将来は頗る明るい。

次節以降、『Seventeen』を素材に、中高生の制服ファッションについて考えてゆこう。

第2節 制服とは

一日の生活の中で、校則に定められた制服や、任意ではあるものの規準服・標準服の着用時間が長い中高生にとって、制服(以下、制服と規準服・標準服を併せて広義の制服として記す)を如何に着こなすかが、おしゃれの大きな位置を占める。進学先の選択にあ

たって、当該校がステキな制服か否かというファッション要素が浮上することも希ではない。学校関係者の一朝一夕の努力では困難だと云われている中高入試の難易度さえ上昇させてしまう、驚くべき効果があるのだ。

先ず、ここでは、『Seventeen』が扱う制服の着こなしや着崩しに入る前に、制服とはどのような存在なのかを理論的に考えてみよう。

制服は特定の集団に帰属することを明示する記号である。通例、学校や企業などの集団において、管理者からの識別性(discrimination)と成員間の相互可視性(inter-visibility)を高めるため、制服(uniform)あるいは準制服(quasi-uniform)が用いられる。制服は当該集団への所属が外部からも内部からも容易(easy)かつ一意(unique)に把握可能となることがその必要条件である。このことを、制服に基づく選択的差異化(uniform based selective distinction)と呼ぶ(栗田 2021近刊)。

前述の理論的定義を順に繙いてゆく。第一に、管理者からの識別性とは、学校ならば教員、企業であるならば上司や現場監督などが、高所や遠方からでも一目に生徒や従業員を、群れの1人として認識可能とさせる働きを指している。第二に、成員間の相互可視性とは、生徒同士、従業員同士がお互いに同じ集団に所属している成員であることを瞬時に確認可能とさせる働きを指している。コスチュームのデザイン、色彩、素材などの独自性がこれらを可能にする。加えて、第三に、当該集団への所属が外部からも内部からも容易かつ一意に把握可能とは、自校や自企業の生徒や従業員が、内部からだけではなく学外や組織外の人間からも判別可能となることを指す。制服とは、その学校や企業を象徴したバッジやワッペンを身体全体、目一杯で着るコスチュームなのだ。

因みに、準制服とは、個別企業によって定められたスタイルやデザインでは無いものの、仕事服として着装するスーツのように、業務中であることが容易に諒解可能であるコスチュームを指す。準制服をも視野に含めれば、制服に基づく選択的差異化の適用範囲は頗る広い。

制服に基づく選択的差異化の出自は、部族間の原初的争いから現代の機械化された総力戦に至るまでの、戦争(war)の中に求められる。戦闘員同士が直に闘う白兵戦においては、管理者(下士官や将校)からの識別性や成員間(兵士間)の相互可視性なしには、すぐさま戦闘不能になってしまう。それ故、軍服を脱い

が見えない敵と戦うことになる現代のゲリラ戦は、制服に基づく選択的差異化つまり制服の有用性を逆手に取った著しく効力のある攪乱戦術となる。だからこそ、ハーグ陸戦協定では、これを禁じているのだ。

外人部隊や傭兵なども多数混在するリアルな戦場では、軍服、徽章、武器、^{のぼり}幟など戦闘コスチュームこそが敵味方を判別する大きな拠り所である。一部の球技に代表されるような、戦争をルーツとしたチームスポーツや、格闘技などにおいても、制服すなわちユニフォームが選手のみならず観客を巻き込む形で、大きな役割を果たしていることは言うまでもない。

第3節 水着より重くメイクより軽い！？

前述のとおり、制服の概念的出自は戦場に見出せるが、現代の中高生たちの制服もおしゃれ度を競うもう一つの戦場だ。

当該校の制服に憧れて進学先を決めることもある一方で、他方では、校則の許す限り、制服を着こなし、着崩す自由を愉しむのが今時の中高生である。『Seventeen』は、生活サイクルの速い中高生ニーズに月二回刊行で敏速にこたえてきた、かつての『SEVENTEEN』時代から一貫して、制服の着こなしを応援してきたのだ。というよりは、むしろ、制服の着こなしムーブメントを積極的に後押ししてきたと云った方が正確かもしれない。

『Seventeen』として月刊化した2008年10月号から2010年9月号まで二年間のバックナンバーを調べてみると、誌面本体において制服特集が組まれたのは、2008年では10月号、2009年では1月号、3月号、8月号、12月号、2010年では2月号、6月号、8月号、9月号を除く、計15冊である(表1)³⁾。全24冊に占める割合は62.5%、『Seventeen』では毎回ではないが、概ね三回に二回の割合で制服特集が組まれていることになり、準レギュラーとも云うべき重要な位置づけであることが判る⁴⁾。

この点を明らかにするために、夏季には頗る需要が高まるもののそれ以外の時期には特集が組まれにくい水着と、年間を通じて一定の需要が見込まれるメイクについて、前述の24冊に関して掲載頁数を測定し、制服特集の頁数と較べた(表2)。

まず、分析対象の2008年10月号から2010年9月号まで二年間において、頁数比較の母数となる『Seventeen』の各号総頁数は、最小値が2010年6月号の200頁、最大値は2009年9月号の280頁であり、どの号も

200頁台に収まっている。その平均値は234.33頁、標準偏差を平均値で除した変動係数を算出すると0.10である。総頁数のバラツキはかなり小さく、おおよそ200頁台の前半であるため、ここでは特集頁数を総頁数で除した構成比率ではなく、知見の解釈が容易となる頁数そのままの値を用いることにしよう。

予想通り、メイク特集は二年間を通じて24冊全てに掲載されており、その需要の高さを物語っている。メイク特集が掲載されている頁数の平均値は5.42頁であり、制服特集の平均値である2.83頁の約2倍の大きさである。掲載が夏季に限られている水着特集の平均値は1.33頁であり、制服特集の約半分の大きさとなる。掲載頁数の単純な量的比較から判断される制服特集は、夏の花形企画である水着特集の2倍を占め、『Seventeen』の、いや多くのファッション誌の、必須企画とも言うべきメイク特集の半分程度にまで達する、軽くはない位置づけであることがこれらの統計指標から読みとれる。

因みに、『Seventeen』は、2009年11月号から編集長が代わっている。このことによって編集コンセプトに変化が見られたか否かを制服、水着、メイクの特集頁数の平均値を編集長時期毎に算出することで推測してみた。越崎編集長時代では、制服、水着、メイクの特集頁数の平均値は各々、2.69頁、1.38頁、4.85頁、崎谷編集長時代では各々3.00頁、1.27頁、6.09頁であり、それほど大きな差は存在しないようだ⁵⁾。

さて、2008年10月号から2010年9月号までの二年間のこれら特集頁数の推移を月毎に纏め、学校暦に沿った4月に始まり3月に至る年度を通じての傾向を捉えてみた(表3)。水着特集は6月号、7月号、8月号の夏季三ヶ月間に集中している。それに対して、メイク特集は頁数の多寡はあるものの各月切れ目無く特集が企画されている。

制服については、主に春の新学期に向けて特集が組まれており、兩年ともに掲載されている4月号と5月号の頁数を併せた累積比率は39.7%に達し、全体のほぼ4割がこの二ヶ月間に集中していることが判る。「ST⊕JK9人のリアル制服おしゃれが見たい!! ST⊕春制服リアルワザ&スクール私物 ガン見 CHECK ☆」といった2009年5月号(112-117頁)の特集コピーにもあるように、春制服の着こなし対策の時期なのだ。次のピークは11.8%を占める7月号であり、2009年7月号(34-37頁)では「タイプ別 男子高生のマジ好きポイントを押さえときました♡男子をクギづけ★夏制服」なる特集が組まれている。初夏を迎え、

表1 2008年10月号から2010年9月号までの2年間における『Seventeen』の制服特集

■制服特集が複数存在する場合は、コピー文章をスラッシュで区切っている。

掲載号		誌面内に掲載された制服特集コピー文章
2008年	10月号	
	11月号	コレでカレができなきゃバイッす！ 学園祭・合唱祭・体育祭秋イベントで彼氏ゲット♡
	12月号	東西JKリアル通学スタイル完全スナップ
2009年	1月号	
	2月号	東西ともに今年はややハデ！ めだったもん勝ちな極上制服着こなし♡これがリアル！ 東京&大阪★通学スタイル/あったか&おしゃれテクもまんさい♡最新冬制服NEWS★21@東京&大阪/ぬくぬく、ホカホカ、あったか小物でのりきろう♪冬の制服アルバム
	3月号	
	4月号	春からまわりと差をつける！！ EASTBOYで発見☆ 学年別最強制服アイテム/かわいくてかぶらないスタイルを追求するなら♡人気ブランドの新学期 制服コレクション
	5月号	ST◎JK9人のリアル制服おしゃれが見たい！！ STモ春制服リアルワザ&スクール私物ガン見CHECK☆
	6月号	「ボロくてダサいっ」から、卒業します！！ 美◇女子高生に大変身♡制服レスキュー
	7月号	タイプ別 男子高生のマジ好きポイントを押さえときました♡男子をクギづけ★夏制服
	8月号	
	9月号	秋制服はコレ着なきゃ News 10
	10月号	秋新作制服で情熱の学園恋愛着まわし♡こくせん一告戦ー
	11月号	YES, WE きゅん♡制服デート
	12月号	
2010年	1月号	ふゆかわ制服が着たいです。1 アイテム別に新作&人気なものだけおとどけ！ 冬制服コレ買いコレクション/ふゆかわ制服が着たいです。2 コンプレックスさようなら～★身長&体型カバー制服コーデ講座
	2月号	
	3月号	新作アイテム&最新コーデ速報！ こんどの新学期からコレがハマります！！ 春制服 BOOOOOM！！
	4月号	注目JK女優&ST◎がお手本♡春制服リアル着こなし/男にモテたきゃ、コレ着なさいっ 激モチッパン制服Best3
	5月号	マジでこっからハマりますんで！！ JK制服リアルSpring
	6月号	
	7月号	男子にも女子にもモテちゃうリアルテク満載～♡新ST◎西内まりや&坂田梨香子のリアルJK制服コーデ1週間
	8月号	
	9月号	

表2 2008年10月号から2010年9月号までの2年間における

『Seventeen』の特集記事頁数 N=24

	通号	各号における頁数				編集長	時期毎の平均値			
		制服	水着	メイク	総頁数		制服	水着	メイク	
2008年	10月号	1448	0	0	5	226	越崎義治	2.69	1.38	4.85
	11月号	1449	1	0	5	218				
	12月号	1450	2	0	4	222				
2009年	1月号	1451	0	0	7	236				
	2月号	1452	6	0	4	230				
	3月号	1453	0	0	4	234				
	4月号	1454	8	0	4	240				
	5月号	1455	6	0	6	218				
	6月号	1456	4	7	7	222				
	7月号	1457	4	8	1	234				
	8月号	1458	0	3	6	244				
	9月号	1459	2	0	6	280				
	10月号	1460	2	0	4	270				
2010年	11月号	1461	6	0	3	244	崎谷治	3.00	1.27	6.09
	12月号	1462	0	0	6	216				
	1月号	1463	6	0	8	278				
	2月号	1464	0	0	4	212				
	3月号	1465	4	0	4	240				
	4月号	1466	8	0	8	268				
	5月号	1467	5	0	9	256				
	6月号	1468	0	4	8	200				
	7月号	1469	4	8	4	208				
8月号	1470	0	2	9	216					
9月号	1471	0	0	4	212					
平均値			2.83	1.33	5.42	234.33				
変動係数			0.99	2.00	0.38	0.10				

表3 『Seventeen』における特集記事の月毎掲載傾向

■2008年10月号から2010年9月号までの24冊を月毎に合算した。

■無印は当該月に掲載無し、☆は単一年のみ掲載、☆☆は兩年とも掲載されていることを示す。

	制服				水着				メイク			
	傾向	頁数	構成比率	累積比率	傾向	頁数	構成比率	累積比率	傾向	頁数	構成比率	累積比率
4月号	☆☆	8	23.5%	23.5%		0	0.0%	0.0%	☆☆	6	9.2%	9.2%
5月号	☆☆	5.5	16.2%	39.7%		0	0.0%	0.0%	☆☆	7.5	11.5%	20.8%
6月号	☆	2	5.9%	45.6%	☆☆	5.5	34.4%	34.4%	☆☆	7.5	11.5%	32.3%
7月号	☆☆	4	11.8%	57.4%	☆☆	8	50.0%	84.4%	☆☆	2.5	3.8%	36.2%
8月号		0	0.0%	57.4%	☆☆	2.5	15.6%	100.0%	☆☆	7.5	11.5%	47.7%
9月号	☆	1	2.9%	60.3%		0	0.0%	100.0%	☆☆	5	7.7%	55.4%
10月号	☆	1	2.9%	63.2%		0	0.0%	100.0%	☆☆	4.5	6.9%	62.3%
11月号	☆☆	3.5	10.3%	73.5%		0	0.0%	100.0%	☆☆	4	6.2%	68.5%
12月号	☆	1	2.9%	76.5%		0	0.0%	100.0%	☆☆	5	7.7%	76.2%
1月号	☆	3	8.8%	85.3%		0	0.0%	100.0%	☆☆	7.5	11.5%	87.7%
2月号	☆	3	8.8%	94.1%		0	0.0%	100.0%	☆☆	4	6.2%	93.8%
3月号	☆	2	5.9%	100.0%		0	0.0%	100.0%	☆☆	4	6.2%	100.0%
計		34	100.0%			16	100.0%			65	100.0%	

薄着での夏制服の着こなしが重要となる時期に違いない。そして、一年間の3分の1に過ぎない4月号から7月号までの四ヶ月間で累積比率は6割に迫る57.4%を示す。制服の出番が少なくなる夏休みを迎え、兩年とも掲載のない8月号を経て、第三のピークは、2008年11月号(95頁)のコピー「コレでカレができなきゃヤバイっす! 学園祭・合唱祭・体育祭 秋イベントで彼氏ゲット♡」に端的に表現されているような、デートや秋の各種イベントでの制服着こなしを指南する11月号であり、全体の10.3%を占める。加えて、注目すべきは、量的規模は大きくはないが9月号から3月号まで、つまり秋冬も、兩年とも掲載無しの号は存在せず、春ほどではないにせよ年度を通じて特集が組まれ続けていることだ。この辺りが、各号頁数の変動係数が0.99である制服特集に対し、変動係数の値がその2倍の2.00を示すはっきり夏限定の水着特集とは大きく性格が異なる(表2)。『Seventeen』の制服特集は春を中心とし、季節のメリハリを利かしつつも、レギュラーに準じた位置づけの編集コンセプトが貫かれているようだ。

第4節 統制と個性化の逆説

制服現象はその内に統制と個性化の双方を含む逆説でもある。実に興味深い行動文化だ。管理者である学校側が制服によって識別性を高めようと企図した瞬間から、生徒たちが自覚する、自覚しないに拘わらず、制服のあり方は変容させられる運命にある。その事態は理論的には、後述するように、制服の脱構築と命名され、『Seventeen』の誌面に象徴されるような、お

しゃれな着こなし、あるいは、着崩しという現象で現れる。

前節で述べた、制服や準制服によってコスチュームが一様化(uniformalization)された集団において、第一に、他者との物理的個体差に基づく差異化、第二に、他者との価値の相違による差異化、第三に、多様な状況における適応としての差異化、第四に、所属する下位集団での差異化、第五に、第一から第四に含まれない差異化、といった様々な差異化がなされることがある。これを、制服の脱構築(deconstruction of uniformalization)と呼ぶ(栗田 2021近刊)。

制服の脱構築についての理論的定義を、第一の物理的個体差に基づく差異化、第二の他者との価値の相違による差異化を中心に、『Seventeen』誌面を素材にして順に繙いてゆく。

物理的個体差に基づく差異化について考えてみよう。コスチュームの一様化とは、制服や準制服によって管理者からの識別性や成員間の相互可視性が高まり、教師から見ても生徒間でも自校生だと容易かつ一意に判別可能な状態のことを指す。ところが、一様化された途端、と云うよりは、コスチュームの完全な統制を意味する一様化など本当は実現不能なのであり、まずは、身長、胸囲、胴回りなど身体のサイズのバラツキによって生徒各人に適した制服が着用されることになる。コスチュームの一様化は出端から挫かれるのだ。しかも、初発には生徒たちのおしゃれ心によって意図的に行なわれる訳ではなく、多様な体型の者が皆等しく着用しなければならぬ社会的要請を帯びた、制服というコスチュームが宿した本来的性格なのである。統制とは、逆説的ながら、個性化を本源的に内包せざるを

得ないものなのだ。

ファッション誌は、『Seventeen』も勿論のこと、初発には意図的ではなかったこの物理的個体差に基づく差異化を、更に増幅発展させ、意図的かつ自覚的な差異化に組み替えることを大いに得意とする。

2010年1月号(130-131頁)制服特集の一部「コンプレックスさようなら～★身長&体型カバー制服コーデ講座」では、冬制服をテーマに、背が低めの「ちびっこさん」には、「かわいめコーデ」が推奨され、「うでにシュシュ」「シャツ&ニットは(白×ピンクなど)軽めカラー」「ショート丈コート」「(ヘアは)ゆるふわふたつむすび」「正統派赤リボン」「スカートは短めに」といった小柄な身体を魅力的に見せる六つのアドバイスが、身長に恵まれた「大きいさん」には、「クールコーデ」が推奨され、「さらさらストレートヘア」「グレー無地スカ」「(モノトーンなど)大人め柄マフラー」「(脚長効果)ニーハイソックス」といった背の高さを活かす四つのアドバイスが、出来るだけ細く見せたい「ぼっちゃりさん」には、「引き締め色コーデ」が推奨され、「細めピーコート」「(あご肉をかくす)ロングマフラー」「スカートも(黒や紺の)濃いめカラー」「(スリムっぽくごまかせる)黒ハイソ」といった着やせに導く四つのアドバイスが、何れも明快に述べられている⁶⁾。「ちびっこさん」「大きいさん」「ぼっちゃりさん」の制服術という、如何にも誰にでも直感的に判りやすい観点から、身長や体型といった物理的個体差に基づく劣等感を拭うための着こなしの諸々の工夫を指南しているのだ。

次は、第二の、他者との価値の相違による差異化、について考えてみよう。制服は、ギャル系などファッション系統のタイプ別演出法に集約される、美容化粧服飾における**選好 (preference)**と**表現 (performance)**によって着こなしが異なってくる。ミニとして穿くためのスカートの折り方や長袖シャツの腕まくりなど、制服の着崩しとして一般に語られる時は、この差異化のことを指すことが多い。

7月号には夏制服が登場する。夏は、薄着になることでシャツやスカートが見えやすくなり、それらの工夫による制服の着崩しが効果絶大となるのだ。前節で制服特集の掲載時期を論じた際にも触れた2009年7月号(34-37頁)の「タイプ別 男子高生のマジ好きポイントを押さえときました♡男子をクギづけ★夏制服」では、「スポーティーにキマるポロシャツ」「インパクトありすぎっ ゴツめスニーカー」などで「運動部男子にモテる♡」「**元気系**」,**「イメージカラーは青だか**

らブルーシャツ」「(汗なんてかきません)長袖&腕まくり」「こびないチョイス無地スカート」などで「男をまどわすシャープな」「**クール系**」,**「頭よさげにダテメガネ」**「ねらいすぎがちょうどいい赤チェックスカート」などで「オクテな女の子のための」「**文化部系**」,**「ゆるエロねらいノーネクタイ」**「(激しくミニの)スカートはチラ見せ☆デカめニット」「またじわじわきてるっ(復活してる)ルーズソックス」などで「ゆるゆるでも、肌見せまくりでも、キレイにまとめる」「**ギャル系**」といった四つのタイプの演出法を、例えば「ルーズソックスはたまらん!俺はこれを押したいね。ギャルにしかはけないんだから、はいてくれ〜!」といった男子高校生からのリクエスト付きで紹介している⁷⁾。

他者との価値の相違による差異化、具体的には、ここでの「**元気系**」「**クール系**」「**文化部系**」「**ギャル系**」は、選好と表現、則ち各自が**選んだ好み**を制服の着崩しファッションというかたちで**表に現**したものであるという文脈で、決して固定化されたキャラではない。地味で落ち着いた「文化部系」から、濃いめのアイメイク+ミニスカート+ルーズソックスというギャル御用達三点セットで、一気呵成に弾けた「ギャル系」に変身することも、本人の希望次第で充分可能となる。変更の融通が利く、もしくは、そのイメチェンにこそ意味があるタイプ別演出法なのである。着崩しマジックとしての制服の脱構築の真骨頂がここにある。

第三の、**多様な状況における適応としての差異化**には、授業、イベント、デートなど場面毎の着こなしや、春夏秋冬といった季節毎の着こなしなどが、第四の、**所属する下位集団での差異化**には、学年毎や部活動毎などでの着こなしが当て嵌まるだろう。そして、以上述べてきた第一から第四に含まれない差異化も含めて全て、制服の脱構築と云う概念で括ることが出来る。

本節の纏めとして、長年にわたって『Seventeen』編集部が目論み、提案し続けてきた、おしゃれな制服の着こなしムーブメントの、骨組みを明らかにするため、2008年10月号から2010年9月号までの二年間に制服特集が掲載された15冊の当該コピー文章に内容分析を施した上で、それらをクラスター分析に投入しよう。

週間単位などでの「着まわし」や目的毎での「コーデ」の語がその制服特集コピーに含まれているか否かを、当該単語が含まれる場合は1の値、含まれない場合は0の値を与えた論理変数「着まわし/コーデ」(x_i)として操作的に定義した。以下も同様に、おしゃれ度をアップする「着こなし」「テク」「わざ」に

表4 『Seventeen』における制服特集コピーの内容分析に基づくデータ行列 N=15

■2008年10月号から2010年9月号までの2年間に掲載された号のみに限る。

		x_1	x_2	x_3	x_4	x_5	x_6	x_7	x_8	x_9	x_{10}
		着まわし/ コーデ	着こなし/ テク/わざ	春夏秋冬	最新/新作	ハヤリ	恋愛/モテ/ デート	彼/男子	JK/ 女子高生	リアル	ST [⊕]
2008年	11月号	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	12月号	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
2009年	2月号	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0
	4月号	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	5月号	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1
	6月号	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	7月号	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	9月号	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	10月号	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0
2010年	11月号	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	1月号	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	3月号	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	4月号	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1
	5月号	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0
	7月号	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1

表5 『Seventeen』における制服特集コピーの内容分析に基づく諸変数間 ユールのQ類似度行列 N=15

■2008年10月号から2010年9月号までの2年間に掲載された号のみに限る。

		x_1	x_2	x_3	x_4	x_5	x_6	x_7	x_8	x_9	x_{10}
		着まわし/ コーデ	着こなし/ テク/わざ	春夏秋冬	最新/新作	ハヤリ	恋愛/モテ/ デート	彼/男子	JK/ 女子高生	リアル	ST [⊕]
x_1	着まわし/コーデ	1	-0.059	0.059	0.935	0.538	0.636	-0.059	-0.429	-0.429	0.2
x_2	着こなし/テク/わざ	-0.059	1	0.059	-0.059	-1	0.636	0.636	0.778	1	1
x_3	春夏秋冬	0.059	0.059	1	1	1	-0.636	0.059	-0.778	-0.273	-0.2
x_4	最新/新作	0.935	-0.059	1	1	0.538	-0.059	-1	-1	-0.429	-1
x_5	ハヤリ	0.538	-1	1	0.538	1	-1	-1	0.231	0.231	-1
x_6	恋愛/モテ/デート	0.636	0.636	-0.636	-0.059	-1	1	0.636	0.273	0.273	0.818
x_7	彼/男子	-0.059	0.636	0.059	-1	-1	0.636	1	0.273	0.273	0.818
x_8	JK/女子高生	-0.429	0.778	-0.778	-1	0.231	0.273	0.273	1	0.951	1
x_9	リアル	-0.429	1	-0.273	-0.429	0.231	0.273	0.273	0.951	1	1
x_{10}	ST [⊕]	0.2	1	-0.2	-1	-1	0.818	0.818	1	1	1

については「着こなし/テク/わざ」(x_2)、季節を表す「春」「夏」「秋」「冬」などについては「春夏秋冬」(x_3)、新しい動きや商品を表す「最新」「新作」については「最新/新作」(x_4)、流行を表す「ハヤリ」については「ハヤリ」(x_5)、セクシュアリティに係わる「恋愛」「モテ」「デート」については「恋愛/モテ/デート」(x_6)、交際相手や異性に係わる「彼」「男子」については「彼/男子」(x_7)、自らのアイデンティティたる「JK」「女子高生」については「JK/女子高生」(x_8)、現実感を際立たせる修飾語「リアル」については「リアル」(x_9)、おしゃれのお手本「ST[⊕]」については「ST[⊕]」(x_{10})として、論理変数を計10箇、定義した。そして、15冊の制服特集コピーをケースとして、これら10変数について内容分析に基づくデータ行列を作成した(表4)。例えば、表4における2行目のケースは、元のコピー文章である2008年12月号

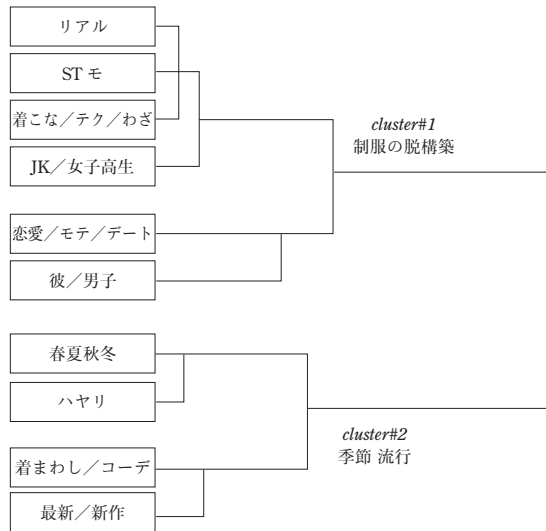
(116-117頁)の「東西JKリアル通学スタイル完全スナップ」の中に、「JK」と「リアル」が含まれるため「JK/女子高生」(x_8)と「リアル」(x_9)のみが1の値を与えられ、他の8変数に全て0の値が与えられた0000000110という数値に変換されている。

これら制服の着こなしに係わる10変数の隣接、分岐、遠近といった関係を、視覚的かつ直感的に把握可能とさせる樹状図、則ち、デンドログラムを描くため、クラスター分析に投入する。ここでは、最も一般的な手法である群間平均連結法を使うが、内容分析で得られた0もしくは1からなる論理変数に基づくことを考慮し、類似度行列の測度として、完全関連でなくとも最大関連の際に1もしくは-1を示すが故に、弁別が効きやすいユールのQを用いた(表5)⁸⁾。

先ず、図1のデンドログラムから判るのは、制服の着こなしに係わる10変数が大きく二つのクラスターに

図1 『Seventeen』における制服特集コピー10変数のデンドログラム N=15

■ユールのQ類似度行列に基づき、群間平均連結法を用いた。



分割されることだ。図1上側のクラスターでは、「リアル」(x_9)、「STモ」(x_{10})、「着こなし/テク/わざ」(x_2)が最近接し、それに「JK/女子高生」(x_8)が繋がる小クラスターに、「恋愛/モテ/デート」(x_6)と「彼/男子」(x_7)からなる小クラスターが合流する。このクラスターを構成する6変数からイメージされるのは憧れのSTモがJKのために制服の着崩しテクを臨場感あふれるリアルさで指南する男子モテ講座、といった編集コンセプトだ。おしゃれな着こなしとセクシュアリティが結合した、まさしく制服の脱構築クラスターと呼ぶもののである。2010年4月号(146-153頁)の「注目JK女優&STモがお手本♡春制服リアル着こなし/男にモテたきゃ、コレ着なさいっ激モテッパン制服Best3」は、ここに含まれる全ての要素を満たしており、制服の脱構築クラスターの理念的な存在である⁹⁾。

次に、図1下側のクラスターでは、「春夏秋冬」(x_3)と「ハヤリ」(x_5)が最近接した小クラスターに、「着まわし/コーデ」(x_1)と「最新/新作」(x_4)からなる

小クラスターが合流している。この4変数からイメージされるのは、四季の流行に敏感な新作着まわし劇場、といった編集コンセプトであり、『Seventeen』のみならずファッション誌全般で観察されうる一般性、汎用性の高い性質のものだ。こちらは、季節・流行クラスターと呼ぶことにしよう。因みに、2010年3月号(152-155頁)の「新作アイテム&最新コーデ速報!こんどの新学期からコレがハヤります!!春制服BOOOOOM!!!」が、これらの全ての要素を満たした季節・流行クラスターの理念的な存在だ。このクラスターの存在は、『Seventeen』が制服着こなし術だけの媒体ではなく、所謂ファッション誌だと云う当たり前だが忘れがちな大切な情報を教えてくれる。

以上、デンドログラムに描かれた二つのクラスター、制服の脱構築クラスターと季節・流行クラスターは、『Seventeen』が中高生に支持された標準的なファッション誌として、制服の着こなしムーブメントを推し進めていることを鮮やかに例証している。

第5節 『Seventeen』を読んでこそ、制服の着崩しありき

前節までの誌面内容についての考察を踏まえ、本節からは『Seventeen』読者層の分析を制服の着崩しの視角から試みる。ここでは、東京23区内に在住する高校三年生までの10代女性を対象に質問紙法に基づく標準化調査として実施された「ティーンズのファッションとメイクに関する調査」で得られた633名からなるデータセットを用いる¹⁰⁾。

まず、10代女性全体のうちで制服の着崩しをどの程度の人びとがしているのだろうか。『Seventeen』読者層についての詳しい分析に先立ち、その点を明らかにしておこう。633名のうち無回答ならびにわからないと答えた「NA・DK」を除いた630名について集計すると、学校が「制服や規準服(標準服)ではない」生徒が143名おり、全体の22.7%を占める(表6)。この

表6 10代女性における制服の着崩し N=633

カテゴリー	実数	百分率	カテゴリー9を除いた百分率	カテゴリー1および9を除いた百分率
1 制服や基準服(標準服)ではない	143	22.6%	22.7%	—
2 着くずすことはない	167	26.4%	26.5%	34.3%
3 ある程度着くずしている	281	44.4%	44.6%	57.7%
4 かなり着くずしている	33	5.2%	5.2%	6.8%
5 元のかたちがわからないほど着くずしている	6	0.9%	1.0%	1.2%
9 NA・DK	3	0.5%	—	—
計	633	100.0%	100.0%	100.0%

表7 『Seventeen』読者層と非読者層における制服の着崩し N=487

クラメールの連関係数 $V=0.321^{***}$ グッドマン=クラスカルの順序連関係数 $\gamma=0.593^{***}$

	着くずすことはない	ある程度着くずしている	かなり着くずしている	計
ファッション誌非読者層	99 65.6%	47 31.1%	5 3.3%	151 100.0%
『Seventeen』を含まない他のファッション誌読者層	53 24.8%	140 65.4%	21 9.8%	214 100.0%
『Seventeen』読者層	15 12.3%	94 77.0%	13 10.7%	122 100.0%
計	167 34.3%	281 57.7%	39 8.0%	487 100.0%

*** 0.1%水準で有意

カテゴリーを除き再集計すると、「着くずすことはない」が167名で34.3%、「ある程度着くずしている」が281名で57.7%、「かなり着くずしている」が33名で6.8%、「元のかたちがわからないほど着くずしている」が6名で1.2%の内訳となった。最大多数は「ある程度着くずしている」の6割弱、次の「着くずすことはない」が3分の1以上を占める。制服着崩しの強者「かなり着くずしている」と「元のかたちがわからないほど着くずしている」は少数派であり、双方併せて1割に満たない。

校則などの厳しい縛りによって、激しい着崩しは困難な場合もあるが、教員の目には触れにくいテクやわざが多用されている現実に鑑みれば、着崩しをするか否かは、生徒たちの価値に依存していると考えた方が自然であろう。ここで、「着くずすことはない」と答えている167名、34.3%の生徒たちは、前節の定義に従えば、自らの選好と表現によって制服の着崩しから目的に距離を置いている層であり、この層を判別することは大いに意味がある。また、最大多数の「ある程度着くずしている」の6割弱と「かなり着くずしている」との差が何処にあるのかも重要な問題だ。操作的に表現するならば、制服の着崩しを考察する上での重要な分水嶺は、カテゴリー2「着くずすことはない」とカテゴリー3「ある程度着くずしている」、および、カテゴリー3「ある程度着くずしている」とカテゴリー4「かなり着くずしている」と云った二つの狭間に存在しており、着崩し強者のカテゴリー4ならびに5を判別しうるか否かにある訳ではない。以下の分析では「かなり着くずしている」と「元のかたちがわからないほど着くずしている」の両カテゴリーは併合し、カテゴリー5は新カテゴリー4「かなり着くずしている」に含ませるものとする。

『Seventeen』読者層が制服の着崩しをどの程度実践しているかを非読者層との比較で明らかにしてみよう。『Seventeen』読者層では、122名のうち、「着くずすことはない」が15名で12.3%、「ある程度着くずしている」が94名で77.0%、「かなり着くずしている」が13名で10.7%の内訳となった(表7)。「ある程度着くずしている」と「かなり着くずしている」を足せば、87.7%にも上る。『Seventeen』読者層では、制服の着崩しにNoと云っているのは1割強に過ぎず、9割近くもの生徒たちが着崩しを行なっているのだ。それとは対照的に、ファッション誌を1冊も読まない非読者層の内訳は、「着くずすことはない」が99名で65.6%、「ある程度着くずしている」が47名で31.1%、「かなり着くずしている」が5名で3.3%であり、ここでは着崩している生徒の合計が34.4%に過ぎず、『Seventeen』読者層とは50%以上もの頗る大きな差がついている。加えて、刮目すべきは、『Seventeen』を含まない他のファッション誌読者層と較べても、着崩している生徒の合計は12%以上勝っていることだ。

表7において、クラメールの連関係数の値は、 $V=0.321$ であり、0.1%水準で有意。このクロス集計表には関連が見出せる。更に、グッドマン=クラスカルの順序連関係数は、 $\gamma=0.593$ であり、こちらも0.1%水準で有意。つまり、双方の変数には順序的な関連があると云うことだ。

『Popteen』(角川春樹事務所)などギャル系と目される他のファッション誌も制服の着崩しと大いに関係していると思われるが、おそらくは『Seventeen』を併せ読んでこそ制服の脱構築ありき、ということなのだろう。これらの知見から、『Seventeen』読者層に注目して制服の着崩しの考察を進めることでの狙いは、的を外してはいないことが読みとれる。以降の分析で

表8 『Seventeen』読者層において制服の着崩しへの影響が予想される変数群 N=122

変数	D			最頻値	中央値	平均値	標準偏差	グッドマン＝クラスカルの順序連関係数 γ	
	d ₁	D ₁							
	d ₂		D ₂						
	着くずす ことはない	ある程度 着くずしている	かなり 着くずしている						
B	ヘアカラー・ブリーチ頻度 (年間回数)	0.20	0.64	3.08	0	0	0.84	1.85	0.580***
M	メイク時間(分)	3.79	14.84	17.67	0	10	13.78	13.03	0.493***
C	1ヵ月あたりコスチューム 支出(円)	3933	5649	10308	5000	4000	5936	8708	0.215
S	渋谷109に出かける頻度 (年間回数)	2.60	3.15	4.23	1	2	3.20	5.50	0.155
S'	渋谷109②に出かける頻度 (年間回数)	2.53	3.12	4.77	1	1	3.22	5.64	0.219
L	『Seventeen』を欠かさず読む	40%	46%	54%	0	0	0.46	0.50	0.147
F	1年前にファッション誌を 読んでいない	33%	12%	0%	0	0	0.13	0.34	-0.700*
A	年齢	14.00	14.96	14.92	14	15	14.84	1.58	0.257

*** 0.1%水準で有意。** 1%水準で有意。* 5%水準で有意。

は、この『Seventeen』読者層の122名を対象としよう。

第6節 ゆるゆるでも、肌見せまくりでも、 キレイにまとめる

本稿でここまで記してきた着崩しは、制服の脱構築の中でも、とりわけギャル系の色彩を帯びた着こなしであろう。質問紙では、レスポネンには「着こなし」ではなく、あえて「着くずし」と尋ねている。第4節での表現を繰り返すならば、「ゆるエロねらいノーネクタイ」「(激しくミニの)スカートはチラ見せ☆デカめニット」「またじわじわきてるっ(復活してる)ルーズソックス」などでゆるゆるでも、肌見せまくりでも、キレイにまとめるといったイメージだ。

この認識の下に、『Seventeen』読者層において、以下に述べる8変数と制服の着崩しとの関連を調べてみた。8変数とは、「ヘアカラー・ブリーチ頻度(年間回数)」(B: blonde)、「メイク時間(分)」(M: make-up)、「1ヵ月あたりコスチューム支出(円)」(C: costume)、「渋谷109に出かける頻度(年間回数)」(S: Shibuya 109)、「渋谷109②に出かける頻度(年間回数)」(S': Shibuya 109-2)、「『Seventeen』を欠かさず読む」(L: loyalty)、「1年前にファッション誌を読んでいない」(F: beginner of fashion magazines)、「年齢」(A: age)である。

これら8変数のカテゴリー別平均値を用いて、まずは、「着くずしをしない」読者層のプロフィールを描き出してみよう。「ヘアカラー・ブリーチ頻度(年間回数)」(B)は0.20回、「メイク時間(分)」(M)は

3.79分、「1ヵ月あたりコスチューム支出(円)」(C)は3933円、「渋谷109に出かける頻度(年間回数)」(S)は2.60回、「渋谷109②に出かける頻度(年間回数)」(S')は2.53回、「『Seventeen』を欠かさず読む」(L)生徒が40%おり、「1年前にファッション誌を読んでいない」(F)生徒が33%おり、「年齢」(A)は14.00歳。以上の統計的な数値に基づく素描を、判り易く言い換えれば、「着くずしをしない」読者層とは、ヘアカラーやブリーチ、そしてメイクをすることはほぼなく、洋服代は毎月4千円未満、多くの10代にとって聖地的存在であったファッションビル渋谷109や渋谷109パート2へ出かけるのは半年に1度、『Seventeen』の熱心な読者が全体の4割、ファッション誌を読み始めてから浅いビギナーの14歳すなわち中学生といった読者像が浮かび上がる(表8)。

次に、「ある程度着くずしている」読者層のプロフィールは、「ヘアカラー・ブリーチ頻度(年間回数)」(B)は0.64回、「メイク時間(分)」(M)は14.84分、「1ヵ月あたりコスチューム支出(円)」(C)は5649円、「渋谷109に出かける頻度(年間回数)」(S)は3.15回、「渋谷109②に出かける頻度(年間回数)」(S')は3.12回、「『Seventeen』を欠かさず読む」(L)生徒が46%おり、「1年前にファッション誌を読んでいない」(F)生徒が12%に過ぎず、「年齢」(A)は14.96歳。以上の統計的な素描を、言い換えれば、「ある程度着くずしている」読者層とは、ヘアカラーやブリーチ、そしてメイク経験があり、洋服代は毎月5千円、渋谷109や渋谷109パート2へ出かけるのは四ヶ月に1度、『Seventeen』の熱心な読者が全体の半分弱、

ファッション誌のベテランがほとんどである15歳と云った像だ。

最後に、「かなり着くずしている」読者層のプロフィールは、「ヘアカラー・ブリーチ頻度（年間回数）」(B)は3.08回、「メイク時間（分）」(M)は17.67分、「1ヵ月あたりコスチューム支出（円）」(C)は10308円、「渋谷109に出かける頻度（年間回数）」(S)は4.23回、「渋谷109②に出かける頻度（年間回数）」(S')は4.77回、「『Seventeen』を欠かさず読む」(L)生徒が54%おり、「1年前にファッション誌を読んでいない」(F)生徒が1名もおらず、「年齢」(A)は14.92歳。以上の素描から見えてくるのは「かなり着くずしている」読者層とは、ヘアカラーやブリーチは四ヶ月に1度、メイクも毎日20分弱、洋服代は毎月1万円、渋谷109や渋谷109パート2へ出かけるのは二、三ヶ月に1度、『Seventeen』の熱心な読者が全体の半分以上、全員がファッション誌のベテランである15歳と云った像だ。

茶髪もしくは金髪で(B)、しっかりメイク(M)、服代を惜しまず(C)、ファッションビルの渋谷109や(S)、渋谷109パート2で頻繁に流行チェック(S')、『Seventeen』に忠誠心を捧げ(L)、昨日や今日ファッション誌を読み始めたわけではなく(f)、概ね高校生となっている15歳であれば(A)、制服の着崩しがなされるというイメージは、ギャル系ほど着崩すだろうという当初の予想と違わない。因みに、ここで変数B, M, C, S, S', L, Aは促進要因であるため、後述のブール代数分析、則ちQCAに合わせ、アルファベットの大字で記し、Fは抑止要因であるため、小文字で示されるその補集合fによって促進を表している。

第7節 激しい着崩しの条件とは

前節では、制服の着崩しをしている生徒たちのプロフィールを素朴な手法で描いたが、本節では、着崩しをもたらす条件を、ブール代数分析QCAによって、その詳細な論理構造に踏み込んで解明する。

相関係数もしくは共分散行列に基づいた解析法では変数間の高次の交互作用が析出しにくい、QCAでは比較的簡便な手順によって、複数の条件が高次元で並列的に絡み合う多元結合の論理構造を解き明かすことが可能になる利点がある。その反面、QCAでは、例えば、条件となる変数が7箇の場合は $2^7=128$ というように、2のべき乗個数の論理積が演算過程で算出されるが故に、みだりに条件を増やすことは、現象の

生起を示す論理積の和集合である論理積和の縮約計算やその意味解釈が困難になるという制約も併せ有している。8箇の変数B, M, C, S, S', L, F, AをすべてQCAに投入すると論理積の総数は $2^8=256$ となり、些か無理がある。N=114程度の小規模サンプルにおいて、現実的な条件の数は4箇程度であろう。そこでは $2^4=16$ の論理積を扱えば良いからだ。

この方針に従って、「制服の着崩し」(D)との関連が、より強い変数を選択するために、グッドマン=クラスカルの順序連関係数 γ の有意水準を較べてみることにしよう。「制服の着崩し」(D)との間で、「ヘアカラー・ブリーチ頻度（年間回数）」(B)は、 $\gamma=0.580$ かつ0.1%水準で有意、「メイク時間（分）」(M)は、 $\gamma=0.493$ かつ0.1%水準で有意、「1年前にファッション誌を読んでいない」(F)は、 $\gamma=-0.700$ かつ5%水準で有意であった(表8)¹¹⁾。 γ が有意であったのは、以上のB, M, Fのみである。これらの知見から「ヘアカラー・ブリーチ頻度（年間回数）」(B)、「メイク時間（分）」(M)、そして「1年前にファッション誌を読んでいない」(F)を先ず選択する。他が促進要因なのに対して、Fは前述したように抑止要因として設定されている故に、 γ の値はマイナスとなる。

B, M, Fまでの選択は容易だったが、第四番目の変数選択は如何にすべきか。グッドマン=クラスカルの順序連関係数 γ の大きさの順番で較べると、前述の3変数に次ぐ、 $\gamma=0.257$ を示す「年齢」(A)が浮上する。有意ではないけれども、ここは統制変数として機能する効果も考慮して、唯一のデモグラフィック変数である「年齢」(A)を採用することにしよう。以降のQCAにおいては、「1ヵ月あたりコスチューム支出（円）」(C)、「渋谷109に出かける頻度（年間回数）」(S)、「渋谷109②に出かける頻度（年間回数）」(S')、「『Seventeen』を欠かさず読む」(L)の4変数は演算から割愛し、「ヘアカラー・ブリーチ頻度（年間回数）」(B)、「メイク時間（分）」(M)、「1年前にファッション誌を読んでいない」(F)といった主たる3変数に、「年齢」(A)を加えた4変数を条件として採用する。

既に論理変数であるF以外のB, M, Aは、0あるいは1の値を示す論理変数に変換する必要がある。「ヘアカラー・ブリーチ頻度（年間回数）」(B)は、最頻値、中央値ともに0であるから、ヘアカラーやブリーチをしない最大多数の生徒たちが半数を超えており、それをしているか否かが分水嶺となっていることが明瞭に判る(表8)。従って、論理変数Bの操作的

定義は、ヘアカラーやブリーチをしていない生徒は0の値、している生徒には1の値を与えることにする。

「メイク時間(分)」(M)の最頻値は0、中央値は10である。メイクをしていない生徒は最大多数ではあるが、半数には至っていない(表8)。中央値である10分前後の箇所に切れ目を入れることも可能だが、ここでは意味解釈の容易さを優先し、メイクをしているか否かを分水嶺と見做したい。従って、論理変数Mの操作的定義は、メイクをしていない生徒は0の値、している生徒には1の値を与えることにする。

「年齢」(A)は、最頻値は14、中央値は15である(表8)。前節で述べた制服の着崩しをしている生徒たちの具体的なプロフィールでも明らかのように、14歳と15歳の狭間に見えやすい分水嶺がある。従って、論理変数Aの操作的定義は、14歳以下には0の値、15歳以上には1の値を与えることにする。

「制服の着崩し」(D)も論理変数に変換する必要があるが、ここでは、「着くずすことはない」と「ある程度着くずしている」の切れ目を判別する所謂、「緩い着崩し」(D₁)と、「ある程度着くずしている」と「かなり着くずしている」の切れ目を判別する「激しい着崩し」(D₂)を両方設定する。そこで、論理変数D₁の操作的定義は、「着くずすことはない」に0の値を、「ある程度着くずしている」および「かなり着くずしている」には1の値を与えることにする。論理変数D₂の操作的定義は、「着くずすことはない」および「ある程度着くずしている」に0の値を、「かなり着くずしている」には1の値を与えることにする。

B, M, F, Aの4変数を条件として、D₁あるいはD₂の成否を示した真理表を作成し、これらの論理積和を縮約することで、制服の着崩しの論理構造を明らかにしよう。まず、緩い着崩しであるD₁の成否を見ると、総数114のうちで100ケースが真理表に沿っており適合度88.7%だ(表9)。ほぼ9割のケースを説明するQCAとしては良い効率である。D₁について論理積10箇からなる論理積和を縮約すると、以下の通りとなる。

$$\begin{aligned} D_1 &= z_1(B, M, F, A) \\ &= BMFA + BMfA + BMfa + BmFa + bMFA \\ &\quad + bMfA + BmfA + bMfa + bmFa + bmfA \\ &= BMA + Bma + bFa + bfA + Mf \\ &= B(MA + ma) + f(M + bA) + bFa \end{aligned}$$

BMA + Bma + bFa + bfA + Mf までで代数的な縮約演

算は終了しているが、縮約で得られた論理積和の意味の解釈を容易にするために、促進要因のB、そして抑制要因Fの補集合であるfで結合させたB(MA+m)+f(M+bA)+bFaへと更に式を変形させた。

では、論理積和B(MA+m)+f(M+bA)+bFaはどのような意味を有しているのか。最初の項であるB(MA+m)は、((メイクをしている15歳以上)あるいは(メイクはしていない))が、双方ともヘアカラーやブリーチはしている生徒たちが、制服の緩い着崩しの担い手となっているという論理積和である。因みに、文中の「あるいは」は+つまりorを、()丸括弧は積和の関係を明瞭にするために付している。次の項であるf(M+bA)は、((メイクをしている)あるいは(ヘアカラーやブリーチはしていない15歳以上))で、双方ともファッション誌を1年以上前から読んでいる生徒たちが、制服の緩い着崩しの担い手となっているという論理積和だ。最後の項bFaは、ヘアカラーやブリーチはしておらずファッション誌を最近読み出した14歳以下の生徒たちが、緩い着崩しの担い手となっているという単一の論理積である。

B(MA+m)の解釈は容易である。((メイクをしている15歳以上)あるいは(メイクはしていない))が、双方ともヘアカラーやブリーチはしているということ、つまり促進要因Bがあれば、促進要因のみの論理積MAは勿論のこと、促進要因が逆転したmがあっても、制服の緩い着崩しに繋がるのである。メイクをしている15歳以上は云うまでもなく、メイクをしていなくとも、ヘアカラーやブリーチをしているのなら、緩い着崩しは、なされることになる。

f(M+bA)の解釈も同様に簡単なことだ。((メイクをしている)もしくは(ヘアカラーやブリーチはしていない15歳以上))で、双方ともファッション誌を1年以上前から読んでいるということ、つまり抑制要因Fが逆転したfと結合するならば、促進要因のMは勿論のこと、促進要因が逆転したbを含んだbAがあっても、制服の緩い着崩しを行なうことになる。メイクをしている生徒は云うまでもなく、ヘアカラーやブリーチはしていない15歳以上も、ファッション誌を1年以上前から読んでいるベテランであるならば、緩い着崩しはなされるのである。

最後のbFaの解釈は難しい。bとaは促進要因の逆転であるし、Fは抑制要因であるからだ。ヘアカラーやブリーチはしておらずファッション誌を最近読み出したビギナーである14歳以下の生徒たちは、どう最目に見ても、制服の着崩しに繋がりにくい。bFa=

表9 緩い着崩し (D₁) ならびに激しい着崩し (D₂) の成否に係わる真理表 N=114

B	M	F	A	D ₁	該当値	矛盾値	適合度	D ₂	該当値	矛盾値	適合度	
1	1	1	1	1	1	0	100.0%	0	1	0	100.0%	
1	1	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	
1	1	0	1	1	8	2	80.0%	1	3	7	30.0%	
1	0	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
0	1	1	1	0	2	2	50.0%	0	4	0	100.0%	
1	1	0	0	1	30	0	100.0%	1	7	23	23.3%	
1	0	1	0	1	1	0	100.0%	0	1	0	100.0%	
1	0	0	1	0	1	1	50.0%	0	2	0	100.0%	
0	1	1	0	1	1	0	100.0%	0	1	0	100.0%	
0	1	0	1	1	17	1	94.4%	0	17	1	94.4%	
0	0	1	1	0	3	4	42.9%	0	7	0	100.0%	
1	0	0	0	1	1	0	100.0%	0	1	0	100.0%	
0	1	0	0	1	24	1	96.0%	0	24	1	96.0%	
0	0	1	0	1	1	0	100.0%	0	1	0	100.0%	
0	0	0	1	1	8	2	80.0%	0	10	0	100.0%	
0	0	0	0	0	2	1	66.7%	0	3	0	100.0%	
					100	14	87.7%					
						82	32	71.9%				

I. 関数 z₁における論理積和の縮約

$$D_1 = z_1(B, M, F, A)$$

$$= BMfA + BMfA + BMfa + BmFa + bMfA + Bmfa + bMfa + bmFa + bmfa$$

$$= BMA + Bma + bFa + bfA + Mf \dots\dots\dots ①$$

$$= B(MA + ma) + f(M + bA) + bFa$$

II. 関数 z₁の補集合をド・モルガンの法則によって①式から導出

$$d_1 = BMfA + BmA + bFA + bmfa$$

$$= m(BA + bfa) + F(BMa + bA)$$

III. 関数 z₂における論理積和の縮約

$$D_2 = z_2(B, M, F, A)$$

$$= BMfA + BMfa$$

$$= BMf \dots\dots\dots ②$$

IV. 関数 z₂の補集合をド・モルガンの法則によって②式から導出

$$d_2 = b + m + F$$

bMfA + bmFa という関係である故、真理表で論理積 bFa の元のかたち bMfA および bmFa まで遡り、そのケース数を確認すると双方とも1ケースのみである。bFa の解釈の困難さは、N=114 という小規模サンプルに起因するノイズが原因しているものなのかもしれない。

問題の余地を残す bFa を含め、「緩い着崩し」(D₁) を成り立たせるのは、第一に、((メイクをしている15歳以上)あるいは(メイクはしていない))が、双方ともヘアカラーやブリーチはしている、第二に、((メイクをしている)もしくは(ヘアカラーやブリーチはしていない15歳以上))で、双方ともファッション誌を1年以上前から読んでいる、第三に、ヘアカラーやブリーチはしておらずファッション誌を最近から読み出した14歳以下、という三つの条件だ。ノイズと見做しうる第三の条件は先述の通りだが、第一および第二の条件では、促進要因のBと抑止要因のFが、3次の高次結合を含み、複数の異なる要因からなる多元結合因果の様相を呈している。そして、得られた論理積和の意味の解釈も概ね合理的に出来る。制服の着崩し

をB, M, Aが促進し、Fが抑止するという当初の予想に概ね沿っているからだ¹²⁾。

B, M, F, Aの4変数を条件として、D₁の際と同様に、今度は、「激しい着崩し」(D₂)の成否を見ると、適合度が71.9%となり、D₁の場合と較べて効率は芳しくない(表9)。D₂について論理積2箇からなる論理積和を縮約すると、以下の通りとなる。

$$D_2 = z_2(B, M, F, A)$$

$$= BMfA + BMfa$$

$$= BMf$$

BMfA + BMfa は縮約されて単一の論理積 BMf となる。では、D₂=BMf はどのような意味を有しているのか。これは極めて単純明快で判りやすい。ヘアカラーやブリーチなおかつメイクもしており更にファッション誌を1年以上前から読んでいるベテラン生徒たちが、制服の激しい着崩しの担い手となっているという論理積なのだ。ここではAの制約は外れ、促進要因BとM, 抑止要因Fの補集合fの単純な論理積の

みによって制服の着崩しが説明される。ヘアカラーやブリーチ、メイク、ファッション誌のベテランという三つの条件が揃えば『Seventeen』読者は激しい着崩しの担い手となる。些かステレオタイプの表現だが、茶髪もしくは金髪で (B)、しっかりメイク (M)、昨日や今日ファッション誌を読み始めたわけではない (f)、といったギャル系のイメージがここに明瞭に現れている。論理積を5箇所も含み解釈がその分だけ込み入った先程の、「緩い着崩し」(D₁)に較べて、「激しい着崩し」(D₂)は、適合度のある程度犠牲にすることによって、説得力のある単純明快な解が導き出せたともいえる。

和を積に、積を和に組み替えて論理積和の補集合を求めるド・モルガンの法則を利用することによって、d₂を得ることが容易に出来る。それは、b+m+Fである。この解釈も易しい。ヘアカラーやブリーチをしていない、あるいは、メイクはしていない、あるいは、ファッション誌を1年前には読んでいなかったビギナーの生徒たちは、制服の激しい着崩しをすることは、ということだ。黒髪 (b)、あるいは、メイクには縁がない (m)、あるいは、最近ファッション誌を読み始めた (F)、ギャル系とは距離を置いた生徒たちのイメージが明快に読みとれる。

以上、『Seventeen』読者層における制服の着崩しのロジックをQCAによって詳細に解析したが、次節は再び誌面の分析に戻ろう。

第8節 ST[⊕]のトップ3は？

表紙は雑誌の命だ。カラーグラビアのイメージ喚起力で勝負するファッション誌ともなれば尚更のことである。

『Seventeen』の過去二年間の表紙を飾る主役であるカバーガールの変遷を調べてみた。

14歳でデビューした後、2009年12月号(5-13頁)で、史上最長7年半もトップST[⊕]の座を保ってきた榮倉奈々が「最高の笑顔がありがとうっ!! 榮倉奈々ちゃん 涙の卒業 Special」と題された特集とともに表紙を飾っている。このような形での記念掲載や、2010年9月号の新垣結衣のようにST[⊕]以外からの掲載、加えて、この期間に新規にデビューしたST[⊕]もあり、母集団の入れ替わり、新陳代謝もある。それ故に、掲載頻度が単純に当該ST[⊕]の支持の強さや魅力の大きさを表している訳ではないが、2008年10月号から2010年9月号までの24冊という限定条件の下、カバーガー

表10 2008年10月号から2010年9月号までの2年間における『Seventeen』のカバーガール N=24

掲載号	カバーガール	着装	
2008年	10月号	桐谷美玲	
	11月号	桐谷美玲	
	12月号	武井咲	
2009年	1月号	佐藤ありさ, 桐谷美玲	
	2月号	榮倉奈々	
	3月号	水沢エレナ	
	4月号	桐谷美玲	
	5月号	武井咲	制服
	6月号	南波瑠	水着
	7月号	桐谷美玲, 南波瑠, 武井咲	水着
	8月号	佐藤ありさ	
	9月号	桐谷美玲	水着
	10月号	桐谷美玲, 武井咲	制服
	11月号	南波瑠	
	12月号	榮倉奈々	
2010年	1月号	佐藤ありさ, 桐谷美玲, 大政絢, 水沢エレナ	
	2月号	桐谷美玲	
	3月号	南波瑠, 有末麻祐子	
	4月号	桐谷美玲	
	5月号	鈴木友菜, 武井咲	制服
	6月号	桐谷美玲	
	7月号	桐谷美玲, 南波瑠, 有末麻祐子, 鈴木友菜	水着
	8月号	大政絢	
	9月号	新垣結衣*	

*ST[⊕]ではないカバーガール。

ルの人気度を知ることは一定の意味があると考えた。

一見して、桐谷美玲の登場回数が多いことが判る(表10)。カバーガールとしての掲載頻度の上位者を順に挙げると、桐谷美玲が登場回数12回、掲載率50%で首位、南波瑠と武井咲が5回、掲載率20.8%で第2位同順、佐藤ありさが3回、掲載率12.5%で第4位ということになる(表11)。トップST[⊕]桐谷美玲の登場はなんと2回に1回という高頻度である。因みに、「美少女もお笑いもOK。衝撃の進化でSTをひっぱり存在に」と形容された佐藤ありさは、赤谷奈緒子と共に、2010年5月号(213-217頁)の特集「5年間STを支えてくれた姉[⊕]ふたりがついに旅立ちます……! ありがとう♡ありさ&奈緒子」を最後にST[⊕]を「卒業」しており、以降の考察では、桐谷美玲、南波瑠、武井咲の3名のST[⊕]に絞って述べてゆく。

ここでのトップ3、桐谷美玲、南波瑠、武井咲は、編集部によって以下のように紹介されている。2010年7月号(89-112頁)「最新プロフィール大公開☆Seventeen Models ST[⊕]21人だよ!! 全員集合!!」では、1989年生まれで千葉出身、「みれいさん」と呼ば

表11 2008年10月号から2010年9月号までの2年間における『Seventeen』カバーガール掲載頻度の上位者

N=24

順位	ST [Ⓢ]	集合写真も含む全掲載		単独掲載		単独掲載を 全掲載で除した 百分率	制服での掲載 (3冊)		水着での掲載 (4冊)	
		実数	百分率	実数	百分率		実数	百分率	実数	百分率
1	桐谷美玲	12	50%	7	29.2%	58.3%	1	33.3%	3	75%
2	南波瑠	5	20.8%	2	8.3%	40%	0	0%	3	75%
	武井咲	5	20.8%	2	8.3%	40%	3	100%	1	25%
4	佐藤ありさ	3	12.5%	1	4.2%	33.3%	0	0%	0	0%

れる「ゆるカワ」といえばこのおかた」桐谷美玲、1991年生まれで東京出身、「るー」と呼ばれる「オトコマエ×まったり=ハル」南波瑠、1993年生まれで名古屋出身、「たけいくん」と呼ばれる「ほのほのトークに癒されちゃう♡」武井咲。ガーリーを上手く着こなす桐谷美玲、マニッシュを自然に醸し出す南波瑠、ほんわか癒し系の武井咲の、『Seventeen』編集部による演出の遣い分け、棲み分けがここに良く表れている。

桐谷美玲は、『Seventeen』編集部が云うところの所謂「1人表紙」、集合写真ではない単独掲載もこの期間最多の7回、29.2%であり、第2位の南波瑠と武井咲の奇しくも同じく2回、8.3%に大きく差をつけている。桐谷美玲が『Seventeen』にカバーガールとして登場する全掲載を分母、単独掲載を分子とした場合、6割に迫る58.3%の比率で「1人表紙」となる計算なのだ。つまり、表紙に登場すれば、6割の確率で「1人表紙」。この期間、このようなST[Ⓢ]は桐谷美玲を除いては1人もいない。旧『SEVENTEEN』から『Seventeen』へと切り替わった重要な2008年10月号のカバーガールを務めたのが桐谷美玲だったのは、決して偶然ではない(再度、表紙3)。

ただし、着装を制服に限定すると、桐谷天下は随分様相が変わる。2008年10月号から2010年9月号まででカバーガールが制服を着装していたのは、2009年5月号、2009年10月号、2010年5月号の3冊であるが、これらすべての表紙に武井咲が登場している。しかも、2009年5月号(19頁)では「トゥースッ! みんなー、新学期だよ♪ 咲は高校生になりました♡ てなわけでノリノリでセシルの新作の制服を着てみたよ! グレーのベストに赤チェックスカートでオトナガーリーな気分がいっきマース☆」という小気味よいカバーストーリーと共に「1人表紙」さえ飾っている。それに対して、桐谷美玲は、武井咲と一緒に写った2009年10月号の1冊に過ぎない。どうやら、表紙で制服を着て貰う役柄は、癒し系の武井咲に期待されているようだ。

では、夏の花形、水着はどうか。この期間、カバーガールが水着を着装していたのは、2009年6月号、2009年7月号、2009年9月号、2010年7月号の4冊であるが、桐谷美玲の登場は3冊、南波瑠も同じく3冊、武井咲は1冊となる。桐谷美玲も南波瑠も水着での「1人表紙」を飾っている。2009年9月号(11頁)の桐谷美玲のカバーストーリーは「青い空♪ 青い海♪」のバリ島で撮影してきたよー! ストロウハットと真っ赤なハイビがめっちゃ夏☆ 美玲の連載を1冊にした、単行本『美玲さんの生活。』の撮影で行ってきたんだよ!」、2009年6月号(17頁)の南波瑠のカバーストーリーは「髪切って♪ カラー変えて♪ イメチェンした波瑠ちゃんーす♪ 水着&サロベにちょっぴり男前なストロウハット合わせたら、キブンは一気に夏!」とテンポ良く語る。『Seventeen』夏の女王は、桐谷美玲と南波瑠でキマリだ。2009年7月号では、この『Seventeen』夏の女王、桐谷美玲と南波瑠に、制服の女王である武井咲を加えた3名が奇しくも表紙を飾っている。ST[Ⓢ]における実力者トップ3の存在感を上手く象徴した表紙である。

以上、カバーガールの俯瞰から読みとれることは桐谷美玲を頂点に、南波瑠と武井咲を加えた3名のST[Ⓢ]が役柄を演じ分けつつ、『Seventeen』の表紙の大半を創り出しているということだ。2008年10月号から2010年9月号までの24冊中で、桐谷美玲、南波瑠、武井咲の3名何れもカバーガールとして登場していない号は、6冊しかない。24冊のうち18冊、75%、つまりは4冊に3冊はST[Ⓢ]のトップ3で飾られている。桐谷美玲、南波瑠、武井咲は、この期間の『Seventeen』にとっての正に顔そのものだと言って良いだろう。

第9節 『Seventeen』小括

中学生に最も愛され、これからも読まれ続けてゆくだろうファッション誌、それが『Seventeen』だ。カジュアルファッションのコーデ、メイク、ヘアメイク、

美容とダイエット, 恋や身体の悩み相談, そして制服の着こなし。ファッション初級から上級まで中高生の多様なニーズに応え, また, 制服の着こなしという点では彼女たちを後押しするムーブメントの担い手でもある。

本章では, 制服の着こなしを中心に, 誌面, 読者層, そしてカバーガールとしてのST[⊕]といった複数の対象への多面的な分析を通じて『Seventeen』について考えてきた。冒頭で述べたように, 創刊以来, 長年にわたって, 中高生の頼りになるアドバイザーとして, ファッション界とその裾野を確実に下支えしてきた『Seventeen』。『Seventeen』が元気である限り日本の服飾化粧美容の将来は頗る明るい, いやそうであるべきだと強く思う。

注

- 1) JKとは女子高校生もしくは女子高生 (Joshi Kosei) の略語であり, 『Popteen』(角川春樹事務所) など他誌でも頻繁に用いられる。『Seventeen』よりも読者年齢層が低い『nicola』『ニコ☆プチ』(新潮社) などローティーンファッション誌では, JC (女子中学生) や, JS (女子小学生) が使われる。
- 2) ST[⊕]は, seventeen models を意味する。
- 3) 特集の定義は, 表紙および目次の双方にそのタイトルが記載されていることである。この定義によって純然たる広告は全て, 広告記事もしくは企画広告も概ね排除可能となる。
- 4) 2008年10月号には, 誌面本体ではなく別冊付録にて, 「女優ST[⊕]の制服スタイル」と云う特集が組まれており, これを合算するならば掲載比率は66.7%となる。
- 5) 時期区分を要因とした分散分析を行なったが, 頁数の何れに対しても有意な効果は認められず, 少なくとも, 編集長交代の影響は, ここでは誤差の範囲内だと見做しうる。
- 6) 鉤括弧内の丸括弧は, 読者の理解を助けるために,

誌面上の同一文脈で用いられている表現を挿入した筆者による補足。以下も同様。

- 7) 元気系, クール系, 文化部系, ギャル系の太字強調は, 出典元ではなく, 筆者が施した。
- 8) ユールのQを用いるここでの短所は, 説明される分散の大きさという観点を割愛してしまうことだ。
- 9) ここでの太字ならびに下線は, 筆者による強調。以下同様。
- 10) 「ティーンファッションとメイクに関する調査」は, 基盤研究(C) 課題番号19530469 「ローティーンファッションとメイクにアーケードゲームがもたらす効果の社会学的研究」(研究代表者, 栗田宣義) の主軸パネルサーベイとして, 平成19年度ならびに20年度文部科学省・日本学術振興会による科学研究費補助金の助成を受けている。レスポネントは東京23区在住の小学四年生から高校三年生までの女性。データセットは2008年3月に実査がなされたパネル第一波と, ほぼ半年後の2008年10月になされたパネル第二波からなる。
- 11) FとDとのグッドマン=クラスカルの順序連関 γ の値が, -0.700 というように, その絶対値が大きい割には有意水準が5%であったのは, BやMなど他の変数が変換前には比率尺度なのに対して, Fは最初から0ないしは1をとる論理変数であることに起因している。
- 12) 式を更に変形させ, MとAを主役にすることも可能。

参照資料

- 越崎義治編 (2008-2009) 『Seventeen』2008年10月号～2009年10月号 集英社
 崎谷治編 (2009-2010) 『Seventeen』2009年11月号～2010年9月号 集英社

参考文献

- 栗田宣義 (2021近刊) 『メイクとファッション』晃洋書房